

令和3年4月1日

静岡精華学園みらい躍進計画 (令和3～令和7年度)

学校法人

静岡精華学園

目 次

I 静岡精華学園みらい躍進計画の策定にあたって	2
II 教育を取り巻く現状	3
<人口減少社会の本格的な到来を迎えて>	
III 現状と課題について	4
1 静岡福祉大学	4
2 静岡大成中学校・静岡大成高等学校	5
3 静岡精華幼稚園	6
4 学校法人静岡精華学園	7
IV 学園全体のビジョン	8
「建学の精神」・「教育理念」・「目指すべきビジョン」	8
V 基本方針・計画管理方法	9
VI 目標と今後の取組	12
1 静岡福祉大学	12
2 静岡大成高等学校	14
3 静岡大成中学校	15
4 静岡精華幼稚園	16
5 学校法人静岡精華学園	17
VII 5年後の主要な数値目標	18
VIII 部門別 収支推移見込	19

I 静岡精華学園みらい躍進計画の策定にあたって

人口減少や少子化等により一部の有名私立大学を除き、地方の小規模私立大学の多くは定員割れに苦しんでいます。

本学園は、明治36(1903)年創立の伝統ある学園ですが静岡精華幼稚園を除いて静岡福祉大学、静岡大成中学校、静岡大成高等学校はこの数年間、定員割れが続いています。

しかし、本学園は長い伝統を持ち、これまで優秀な人材を社会に出してきました。創立者杉原正市の卒業生に送った言葉に「学校でいただく成績は、あくまでも仮のものであって決してその人の価値を決めるものではありません。真にその人の価値を決める成績は皆さんが世の中に出て、どのような生き方や生活をするかによって、世の中の人達、つまり社会が、皆さんの本当の成績をつけてくれるのですよ」とあります。

建学の精神「時代に即応する新しい人材の育成」のもと、今こそ各部門が努力し、社会に役立つ人材を育てたいと思っています。

その為には経営改善が急務です。この度、令和3～令和7年度の中期計画「静岡精華学園みらい躍進計画」を作りました。本計画にもとづいて、「時代を先取りし、社会に支持される学園を」目指します。

中でも教育部門では今まで同様一人一人の人格を大切にし、幼稚園児、中・高生徒、大学学生たちが生き生きとした学園生活を送ることができるように努力したいと思います。

その一方で、財政部門はかなり厳しい状況が予測されます。年度末には逐一見直しながら、優先順位にそって支出を決めたいと思います。コロナ禍はまだ予断を許さないだけに、計画の修正も視野に入れながら歩んでいきます。

新理事長として今のところこれだけしか申し上げられませんが、精華学園が存続するように皆さまのお力を借りたいと思います。

学校法人静岡精華学園

理事長 杉原桂子

Ⅱ 教育を取り巻く現状

<人口減少社会の本格的な到来を迎えて>

<生産労働人口減少、本格的なダイバーシティ、AI・ロボット化の進展>

2030 年までを俯瞰しますと、日本の生産労働人口は現在より 8%(約 570 万人)減の 7300 万人まで減少するとされています。これは、四国の約 1.5 倍の人口に相当します。不足分を補うためには、女性や高齢者の活用だけでなく、外国人労働者等、多様な労働力の活用が必須になります。様々な人々と一緒に働くための、本当の意味でのダイバーシティへの対応、異文化コミュニケーションへの対応が必要となります。

一方、2030 年には、欧州や中国も人口減少局面に入っているため、優秀な外国人労働者の獲得競争が本格化すると思われ、不足分を補うためには AI 及びロボティクスの活用等で、生産性を高めることが重要になります。既に、大手銀行では窓口業務等が自動化されており、2030 年に向けて、ホワイトカラーの仕事の自動化が本格的に進められると予測されています。

それによって、仕事がロボットに奪われてしまうと考えてしまいがちですが、そうではありません。仕事の種類や内容が変化し、新しい仕事が生まれてくるからであります。その時の人材ニーズは、AI やロボットを活用する研究開発職・IT 関連職や、代替が不可能な高付加価値な営業・サービス職等になると予想されています。そうした未来において、大卒人材に求められるものは、AI やロボットではカバーできない、創造的な思考能力、高度なコミュニケーションを必要とするソーシャル・インテリジェンス(※)、マニュアル化できない非定型業務への対応といったスキルであり、知識・理論を用いて思考し、高い付加価値を発揮できる力です。

※ソーシャル・インテリジェンス……人の感情に共感したり、人の気持ちを理解するという能力のことです。

<適正規模・地域配置と質向上の両立が課題に>

大学を例にとると、18 歳人口は 2020 年の 116 万人から 2030 年には 104 万人にまで減少します。これから 10 年間で 12 万人減少することになり、大学進学率を現状のまま約 5 割として計算すると、6 万人がマーケットからいなくなり、定員規模 1000 人の大学が 60 校なくなる計算になります。その時の大学の定員充足率を試算すると、全国平均で 93.3%となります。中教審の将来構想部会では、2033 年には 18 歳人口が 100 万人を切り、定員充足率が全国平均で約 85%になると予測しており、“地方”“小規模大学”が厳しい状況にあるとされていますが、将来の人口減少マップを見ると今後その傾向はさらに強まるものと考えられます。

中教審などでは 2040 年に向けた議論が進められており、特に話題を呼んでいるのが大学間連携・法人統合であります。一つの国立大学法人が複数の国立大学を運営できるようにする制度改正が検討されるとともに、国公私立大学の一体的な連携に基づく統合も視野に入れた一般社団法人「大学等連携推進法人(仮称)」の設立が提示されています。それぞれ各地域において、学問領域の多様性を担保しつつ、経営の効率化を図っていくことを想定しているのではないのでしょうか。

日本の高等教育を長期的な視点で考えると、機能や役割の分担を明確にした大学の統合や連携システムが各地域で構築され、大学間で相互に補完しつつ“地域の高等教育を担うシステム全体として”、効率化、競争力の強化、多様性を確保しながら、質の保証を実現していくという方向に進んでいくのではないのでしょうか。

本学園においては、学園の魅力を最大限に生かした教育の質の保証を実現してまいります。

Ⅲ－1 現状と課題について

<静岡福祉大学>

平成から令和にかけて高等教育のあり方が大きく変わりつつあります。その変化は社会経済的要因を背景とすると同時に、教育審議機関による提言に基づく国の高等教育政策の大きな転換を意味します。併せて大学の存在価値を含むそのあり方について大学内部に向け、自ら考えさせるきっかけともなっています。これを要約すれば、社会状況の変化、とりわけ2030年以降の来るべき社会を見すえ、知の拠点である大学に対して、学修者本位の教育を目指すとともに多様で柔軟な教育プログラム等により、時代にふさわしい変身をうながす内容といえるでしょう。

こうした大改革の時代における大学としては、短期的な改革にとどまらず、使命や価値など、本学の理念ともいえる領域に踏み込んだ中長期的な計画を構築する必要があることはいうまでもありません。社会に信頼され支持される大学として、本学が持続的な成長を遂げるためには、教学マネジメントの確立が必須であり、そのためには現在進行形ともいえる3つのポリシー(※)を通じた学修目標の具体化、授業科目・教育課程の編成と実施、学修成果・教育成果の把握と可視化など、エビデンスとしての裏づけが欠かせません。

これまで本学は専門職という特化した分野の人材養成に焦点をあて、専門性を主要な柱とする教育体系を築いてきました。しかし、今後は長期的な観点に立脚し、専門職養成にとどまらず、市民社会を形成する能力を身につけた人間性豊かな教養人をその人材像として視野に入れる方向についても真摯に検討する必要があります。

折しも2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」及び「持続可能な開発目標」(「SDGs」)では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」等を育み、内外の諸課題を自ら把握し、その解決を図る人材を育成する組織として、教育機関に大きな期待が寄せられています。本学で学ぶ学生たちは、まさにSDGsの議論の中核を担い、2030年以降の社会で活躍する核となる存在にほかなりません。

また令和2年度は、コロナ禍をきっかけに遠隔授業の試みがなされ、本学においても通信環境の整備等を実施しました。一方、遠隔授業そのものはコロナ禍に限らず、教育的観点から十分検討に値する授業形態といえることができます。したがって、新たに構築する教育体系のなかに面接授業との併用を組み込むことは十分に意味があります。人と人を中心とする情報伝達技術であるICT環境の整備、さらにはあらゆるものがインターネットでつながる仕組みであるIoTの推進においては、長期にわたる投資が欠かせないだけに本学としても今後はハード面を含む確固たる修学環境整備計画を作成し、内外に公表して参ります。その際に、静岡精華学園としてのネットワークを活用し、各教育機関間の情報交換にはじまり、協働事業の実施等を通じて、さらに創発的な効果を発揮することも喫緊の課題と考えています。

いずれにしても、これらの課題解決の方策が画餅とならないためにも、責任ある体制を構築し、一人ひとりが我が事として活躍可能なロードマップを令和3年度から開始したいと決意を新たにしています。

※3つのポリシー……「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」、「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」を指します。

Ⅲ－２ 現状と課題について

＜静岡大成中学校・静岡大成高等学校＞

静岡大成中学校・高等学校は、1903 年、明治 36 年に「私立静岡精華女学校」として創設され、今年で創立 117 年を迎える歴史と伝統のある学校です。創立者杉原正市先生は「時代に即応する新しい女性の育成」を建学の精神に掲げ、時代に活躍する女性を数多く輩出してきました。そして、創立 100 周年を機に、平成 16 年度には「静岡精華中学校・高等学校」から現在の校名に変え、男女共学となり今年で 17 年を迎えます。杉原先生の意味を受け継ぎ、「時代に即応する新しい人材の育成」を建学の精神とし、これからの時代に活躍できる人を育てる教育を実践しています。

中学は、平成 15 年度に、全校生徒 37 名、各学年 1 クラスという状況の中、スターライトクラスを実施し、平成 16 年度には公立高校の受験を可能とする方針を打ち出し生徒募集を開始しました。そして、静岡高校・静岡東高校・清水東高校などへの進学実績によって着実に入学者数を伸ばし、現在は全校 165 人の各学年 3 クラス編成となり、ようやく静岡大成中学校のブランド名が定着してきました。今後は、進学実績の向上と、スターライトクラス以外の特色を打ち出す必要があります。公立中学の部活動が縮小する中、本校運動部の実績も特色の一つです。また、静岡大成高校につながる特色づくりで、静岡大成高校への進学者の確保も検討していきます。

高校では、平成 15 年度に、全校生徒 390 名、各学年 5 クラスという状況の中、平成 16 年度には男女共学と共に総合選択制が完全実施され、307 人の新入生を迎えました。その勢いは翌年も続きましたが、その後は厳しい生徒募集状況が続きました。特進コースには生徒が集まらず、平成 22 年度に廃止となり、総合選択制に一本化されました。自分の進路にあった科目が選択でき、進学も就職もできる学校として、受験生の関心も高く、説明会参加者数も増加していますが、生徒急減の中、本校の学力レベルの生徒が公立高校に流れているのが実情です。進学・就職のレベルアップを図り、更なる特徴を出すことによって、静岡大成中学校や公立中学校の生徒を引き寄せる魅力を出すことが今後の課題です。また、特待生制度により部活動実績が上がったことや、スクールバスを運行することによって入学者の増加傾向がみられます。

一方、中学校・高校に共通した課題として、広報費の縮減によって広報戦略施策の展開に支障をきたしていることが挙げられます。ホームページや ICT 機器の保守管理、リーフレットの内製を教員が行うなど、経費節減に努めていますが、十分な広報活動が行えないのが現状です。このため、学園全体で、ネット環境の構築や広報戦略の統一化・共同実施などを図ることによって、経費の節減や教員の負担軽減を図るとともに広報活動の充実を進める必要があります。

最後に教育内容についてですが、新学習指導要領は「主体的、対話的で、深い学び」を教科に取り入れ、「思考力、判断力、表現力」の育成を高校に求めています。これは本校の目指す生徒、「自分の力で考え、判断し、正しい言葉で伝えることができる」とも一致します。そのためには、ICT 端末によって得られる情報を有効に利用し、話し合い、課題を解決する「新しい授業」を提供することです。「新しい授業」の実践が、「時代に即応する新しい人材の育成」につながるものと考えます。

Ⅲ－３ 現状と課題について

<静岡精華幼稚園>

少子化が進行し、静岡市の園児総数は年々減少の一途をたどっています。市内各園は軒並み園児定員を下回り、園バスを広範囲に走らせたり目玉的イベントを開催したり、あるいはこども園に鞍替えしたりして、園児獲得に躍起になっています。しかし、その中にあって、本園は今年度も唯一園児定数を確保し、来年度もすでに満席が予想されています。

園児数の充足が安定化してきている要因は多々考えられますが、その最たるものは、確かな教育・保育の着実な提供と考えます。ゆるぎない教育理念の下、確たる教育方針に則った確かな教育・保育の提供は、日々子どもたちに喜びと充足をもたらし、親たちにわが子の育ちの実感、納得と満足を届けます。そして、満たされた子どもたちの笑顔を目の当たりにし、子どもたちの育ちを実感した親たちは、その喜びを幼稚園への信頼へと転換させます。その喜びと信頼は、その親をして自らが手にした喜びと信頼を共有すべく他の親への発信と入園勧誘を推し進めさせます。今やこの動きは年を追うごとに加速してきていると言っても過言ではありません。

言ってみればこの動きは正論です。物を提供するとき、人の心を揺さぶるには本物に直面させるは世の常道です。本物を感じたときの驚き、感動は、その人の心に深く刻み込まれます。教育・保育も同様です。わが子の育ちを実感したとき、その実感は納得に変わり、納得は感動を呼び起こします。呼び起こされた感動は、その感動を他者と共有したいという共有願望を喚起します。共有願望の具現は、子を持つ他の親への働きかけ、言うなれば口コミです。口コミによって園に立ち寄ってみる。立ち寄ってみて本園の教育を実感する。教育を実感した親は、入園してみてもその実感を納得へと変換させる。そこで生じた納得が、また新たな口コミを呼ぶ。今、静岡精華幼稚園の経営は、このような口コミに大きく支えられていると言っても過言ではありません。しかし、その口コミを呼んだのも、確かな教育・保育の連続的継続的推進に他なりません。静岡精華幼稚園の経営目標は、「子どもが行きたくなる幼稚園、親が行かせたくなる幼稚園づくり」です。この目標達成のための手段は、他でもない本物の提供、つまり、確かな教育・保育の推進です。静岡精華幼稚園は、明日も確かな教育・保育の推進に全力を尽くします。

しかし、その一方で、社会、教育界は日々刻々と変化してきています。子どもたちの未来を担う私たちは、この変化に鋭敏でなくてはなりません。今何が問題になっているのか、その問題は今後どのような方向に発展していきそうか、そして、その過程で新たにどのような問題が派生してきそうかなどを見極め、あるいは予測しなくてはなりません。さらに、私たちは、鋭敏さに加えて、未来を生きる子どもたちにその未来に対応できる能力の素地を具えさせなくてはなりません。そのためには、まずは、私たち自身が先を見通す力、つまり先見的洞察力の練磨に励まなくてはなりません。そして、先を見通した教育・保育の実現に叶う教育力の向上に努めなくてはなりません。社会の変化を鋭く見抜く先見的洞察力の練磨と変化を視野に入れた教育力のさらなる向上、それは、幼児教育界をリードする静岡精華幼稚園の次なる新たな課題です。

Ⅲ－４ 現状と課題について

<学校法人静岡精華学園>

学校法人の最高意思決定機関である理事会について、その機能の実効性をさらに追求するとともに、評議員会のチェック機能の充実を推し進め、監事の牽制機能の実効性を確保することが重要となっています。

効果的な組織マネジメントを図るためには、法人・教学の各部門の機能・役割の明確化と連携の強化、組織運営の基本となる規程等の整備と権限・責任を明確化した運用に加え、自己点検評価や外部評価を活用したPDCAサイクルによる業務改善、内部統制機能としての内部監査を充実し、監事・監査法人と連携した三様監査体制を有効に機能させる必要があります。

財務面については、強固な財政基盤の確立と収支バランスの安定化が、喫緊かつ最大の課題です。収入面では、設置校の定員未充足や獲得条件のハードルが高くなった補助金などによる収入減、支出面では、教育・研究に対応するための人件費・教育研究費の増加や教育研究活動のための環境整備関連費用の増加などにより、収支バランスが不均衡となっています。

このことから、収入については、補助金等の確実な獲得、新たな資金源としての寄附金等への取り組みを図る一方、支出については、学生・生徒数の減少や事務量に対応した適正な人員配置、教育研究経費や管理経費等の抜本的な見直しなど、早急かつ確実に実施しなければなりません。

更に、予算編成の厳格化と予算内運用の厳正化を図りつつ、早期の収支不均衡状態からの脱却を図り、将来に向けた施設設備積立の着実な積上げを実現していくことが必要です。

人事面については、高度化・複雑化する教育・研究に適応し、加えて多様化する学生・生徒への適切かつ的確な対応ができる人材の資質・能力向上が急務であることから、研修体制や働き方改革等への適切な対応を推し進めていく必要があります。

IV 学園全体のビジョン

「建学の精神」・「教育理念」・「目指すべきビジョン」

建学の精神は

「時代に即応する新しい人材の育成」

本学園の創設者である故杉原正市氏は、来るべき女性が活躍される社会を見据え、「時代に即応する新しい女性の育成」を掲げて、当時としては斬新な女子教育の教育実践を決意しました。その後、男女共学の教育機関として、創始者の意思を受け継ぐべく、「時代に即応する新しい人材の育成」に改正し、将来に向けて、教育にかける熱い思いを忘れることのないように努めてまいります。

教育理念は

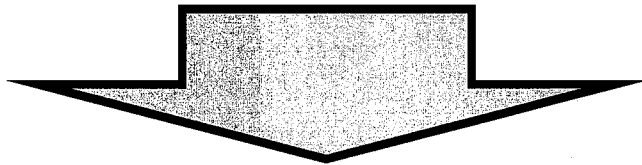
「愛・自立・共生」

「愛」は思いやりであり、「自立」は自分の頭で考え行動し、それに責任を持つことであり、「共生」は自然や他人を傷つけないで助け合うことであります。

これは人間が生きていくうえでの基本理念であり、福祉の心でもあります。

予測が難しい未来に向けて「漫然と迎える未来」→「主体的に築く未来」

目の前の問題に行きあたりばったりの対応では後手になってしまいます。それを回避するためには、将来を予測し、知恵を働かせて主体的に未来を選択していかなければなりません。



目指すべきビジョンは

「時代を先取りし、社会に支持される学園」

21世紀を展望するとき、いのちの教育をとおして新たな「子どもの世紀」を創り出す取り組みが期待されています。本学園は、草創から今日まで、幼子から若人までの人生の最も輝けるステージを受けとめ、育み、支える教育実践を継いできました。

私たちは、学園で学ぶすべての園児・生徒・学生が他人の思いを受け止めるとともに、自分らしさを大切に、優しさと凛々しさを備えた一人の人間として育つ教育を提供します。

「愛・自立・共生」という教育理念のもと、一人ひとりの無限の成長と可能性を信じ、近未来を拓いていく営みを今後とも続けてまいります。

V 基本方針・計画管理方法

<基本方針>

I 質の向上

教育ビジョン「目指すべき園児・生徒・学生像」

教育ビジョン「目指すべき教育・教職員像」

教育ビジョン「目指すべき学園組織」

II 安定した学園経営

確実な定員充足「入学者の安定的な確保」

財務状況の改善

働き方の改善

<計画管理方法>

I 年間計画の策定と進捗管理

II PDCA によるブラッシュアップ

III 理事会・評議員会による業務評価

＜基本方針＞

I 質の向上

教育ビジョン「目指すべき園児・生徒・学生像」

全ての社会構造が大きく変化し、多様化しようとする社会を生き抜く力を養うためには、夢を持ち、その夢を現実に繋げようとする、しなやかな、かつ、したたかな意志が必要となります。また、他者への理解と配慮も忘れてはならず、自らの責務を果たしつつ、他者に対して公平に接するとともに、公正な判断が行えなければなりません。そのためには、予測不可能な社会の中で困難を克服することのでき、多様性を生み出すことのできる「時代に即応する新しい人材の育成」が肝要になります。

II 安定した学園経営

確実な定員充足「入学者の安定的な確保」

教育機関であることから学園の収入の核となるのは学納金であり、例え、収入源を多様化したとしても入学者が十分に確保できない場合の経営は非常に難しいものとなります。

地方の私立学校として、入学者のターゲットは主に県内に絞られています。入学者や保護者に効果的で説得力のある広報活動をしていかなければ、十分な入学者の確保が図られるものではありません。

また、学園の強みである「教育の質」をさらに向上させながら、常に進歩する学園の姿を受験者等にしっかりと伝えていくことで、本学園に対する興味を増幅させるとともに、本学園の存在感を拡充することで確実な定員充足を目指していきます。

教育ビジョン「目指すべき教育・教職員像」

教育・研究活動を通じて得られた成果を教育に反映させ、学園全体の教育力の向上を図り、「時代に即応する新しい人材」を輩出し社会に貢献することが、本学園の目指すべきビジョンである「時代を先取りし、社会に支持される学園」を実践することになります。

地域社会に貢献し、地域の活性化と発展を目指すことは、静岡の地に根付いた本学園の使命であります。

そのために学園全体として人材育成や研修を積極的に行い、教職員の質向上に努めます。

われわれ教職員は目的を共有し、高度な知識や専門的なスキルを有する教職員が緊密に連携することで、大学、中高及び幼稚園の各教育方針・教育目標の下、個性ある園児・生徒・学生の育成に全力を投入いたします。

財務状況の改善

収入の面では安定的な入学者数(学納金)の確保を図るとともに、堅実な資金運用を通じて財務基盤の安定に努めることとします。

支出に関しても予算の計画の段階からその内容について十分に精査し、選択と集中の観点から十二分の検討を行うとともに、予算執行にあつては、常にその執行が適切・適正であるかどうかの検討を加え、教育・学校運営の面に効果な方法で支出を行うよう努めます。

特に、最大の支出要因である人件費の比率が年々高騰していく傾向であるため、抜本的な見直し検討が必要であると考えます。しかしながら、単に人件費の抑制をすることではなく、大学においては学生が真に使いやすいカリキュラムの導入や資格取得のためのカリキュラムなどの全面的な見直しをすることといった総合的な検討・改善を行っていく必要があります。

教育ビジョン「目指すべき学園組織」

これまでこの地域に育まれてきた学園として幅広い年齢層に対し教育機会を提供するとともに、多様な知識やノウハウを地域社会に還元し、地域との連携を通じて新しい価値や知見を培うとともに、地域社会への貢献で得られた成果を教育・研究に環流することにより、新たな社会的価値を生むサイクルを確立します。

本学園には今後、既存事業の改善を図りつつ、選択と集中により優先順位を決めて迅速に計画・実行する体制が必要であります。そのためには、年齢、性別等にとらわれない多様な人材活用と、意思決定及び施策実行の迅速化を可能とする組織作りが必要であります。

本学園は将来に向け、盤石な組織体制と財政基盤を確立することで、高次元の教育・社会貢献活動を支えていくとともに、本学園への帰属意識や満足感・期待感を高めることで、組織力をより強固なものとし

ます。

働き方の改善

各所属において教育の質を高め、また、教育以外のサービスの質を高めるためにも、それらを進める中心的な人材が必要となってきます。そのためには、専門的な研修を受講させ、個人のスキルを高め、また OJT(※)により多くの人たちに伝授させるなどして、教職員全体の力量の底上げを図ることが重要です。

また、特に専門的な分野においては、有為な人材を獲得していくことも必要な選択肢です。そのためには、働く人たちの業務の効率化や業務分掌の見直しによって、教職協働を実践することが不可欠です。

また、限られた財源の中での待遇改善には限りがありますが、学園全体として貢献している人材が報われる評価の仕組みを導入することで、優秀な人材のモチベーションアップを図るべきであります。

※OJT……On the Job Training の略で、職場の上司や先輩が、部下や後輩に対して、実際の仕事を通じて指導し、知識、技術などを身につけさせることです。

<計画管理方法>

I 年間計画の策定と進捗管理

静岡精華学園みらい躍進計画の策定により、学校法人としての計画的な方向性が示され、それに伴って各所属が取り組むべき課題が明確になり、それぞれの計画の具現化に向けた事業実施が重要となってまいります。

加えて、各年次において特に重点的な課題を抽出し、更なる具体的な取り組みを行うとともに、それらの進捗管理を併せて実施することにより、静岡精華学園みらい躍進計画が具現化されるものであります。

II PDCA によるブラッシュアップ

どのような素晴らしい計画でも、常にその進捗をどのように把握するのが非常に重要なものとなります。

そのためには、PDCA「Plan（計画）」、「Do（実行）」、「Check（評価）」、「Action（改善）」の4つの段階を順番に繰り返すことにより、行動のひとつひとつについて効率化と改善を図り、最終的な業務の成果の向上につなげていくことが重要であります。

PDCA は、業種や職種を問わず全ての仕事において成果を生み出すマネジメント手法として有効なシステムであることから、いつでも PDCA による確認ができる機能を設置することが必要であります。

III 理事会・評議員会による業務評価

将来的な事業活動や収支等を中期的に見込んだ静岡精華学園みらい躍進計画に基づき、法人の健全な経営を維持していくことが肝要であります。

PDCAサイクルでは、計画の達成状況を分析することが重要であり、それらの分析に基づいて、事業運営や計画見直しに反映させ、適切・迅速に経営改善に取り組むことが必要となります。

そのためには、社会経済情勢等の変化や突発的な事象を反映させ、現状との乖離について適切に計画の進行管理や計画の見直しを行うことが必要であることから、本学園の理事会や評議員会において計画の業績評価を行う所存です。

<基本方針>

I 質の向上

	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
教育ビジョン 「目指すべき園児・生徒・学生像」	1.教学体制	R3～R7	○ 少人数教育のシステムを確立して教育の実効性を向上	★★★	● 少人数教育のシステムを本格化し、名実ともに本学教育の根幹として整備する。
		R3～R7	○ 入学から卒業までのポートフォリオ・システムを実現		
		R3～R7	○ GPA等の活用による学修成果の可視化と学修支援の充実		
		R3～R7	○ 学生の自主的・主体的な学修活動の促進		
		R3～R7	○ 教育理念、教育方針に基づいたカリキュラム等の在り方を検討	★★★ ★★★ ★★★ ★★★ ★★★ ★★★ ★★☆	● 多種の資格・免許の取得をめざす多岐にわたるカリキュラムを再編し、学生にわかりやすい課程として整備する。 ● 資格等に係る課程の定員を明確化する（教員の採用計画とも連動する）。 ● 学部としての共通科目及び学部の特性に応じた開設科目を見直し、学部の核となる科目の再編を通して教育特性を明確化する。 ● 学部「基礎科目」等の再編により学際的な学修交流とリテラシーを形成する（本学教育の独自色）。 ● 在学中に免許・資格を選択しない学生（いわゆる「ゼロ免」）のための「カリキュラム」を整備する。 ● 小学校教諭免許、公認心理師等の位置づけを明確化し、養成課程として整備する。 ● 他大学との単位互換等による教育機会の多角化（大学コンソーシアム）を図る。
	2.学生支援	R3～R7	○ 学生の多様な学修ニーズを的確にとらえ、学生が主体的に学ぶ支援体制・環境を整備	★☆☆ ★☆☆ ★★☆	● 学生の奨学金制度等を充実していくために「基金」（寄付）制度を検討する。 ● 他機関・団体との連携による福祉人材確保のための奨学金制度を創設する。 ● 学内インターンシップ（図書館、パソコン教室、オープンキャンパス等）の活用を図る。
		R3～R7	○ 学業や進路に関する在学生の相談・支援の体制を充実	★★★ ★★☆ ★★★	● 本学の卒業率、退学率等の可視化を通して、退学理由を精査し、アドミッション・ポリシーの徹底を図る。 ● 休学・復学等支援プログラムを作成し、修学の継続的支援体制を構築する。 ● 学生のキャリア支援の視点からキャリア支援関連科目の統廃合を行い、キャリアアップにつながる支援体制を整備する。
		R3～R7	○ 心身の障がい・疾患のある学生に対するきめの細かな支援体制を整備	★★☆	● 学生相互の支援体制システムを整備するために、チューター制、ティーチングアシスタント制を導入する。
		R3～R7	○ 障がい学生に対する合理的配慮を積極的に推進し、可能な限りユニバーサルな環境を整備		
	4.国家資格等	R3～R7	○ 国家資格・公立小学校の採用試験等の合格率を高めていくための仕組みづくりを構築	★★☆ ★★★	● 受験体験談や活動内容を聴く機会をととして学生のキャリア・プランニングに資する。 ● 国試等の学習効果を高めるためにゼミナール形式の可能性を検討する。
		R3～R7	○ 全ての養成課程に関する効果的な仕組みづくりと実績に基づく予算化を実現	★★☆	● 学内予算を用いて学内教員にて講座等を実施することを検討する（手当等を検討する）。
		R3～R7	○ 国家資格試験対策センターの支援力・教育力を拡充	★★★	● 「国家試験受験準備室」等を設けて学生の試験準備を充実する。
	5.国際交流	R3～R7	○ 国際交流委員会を中心とした国際交流活動を推進	★☆☆ ★☆☆	● 留学生の受入・確保のために入試制度の改善及び国際交流の取り組みを強化する。 ● 時機を得て「国際交流センター」等を設けて交流活動を本格化する。
		R3～R7	○ 学生の国際交流に対する関心を高める支援プログラムを検討	★☆☆	● 海外での異文化体験や海外研修をサポートする体制を準備する。
		R3～R7	○ 交流協定校制度を設け、段階的に拡充	★☆☆	● 交流協定校の制度化と拡充を図る。
	6.地域貢献	R3～R7	○ 地域活性化プロジェクトに係る教育プログラムを開発	★★☆	● 社会人等の学び直しの場や機会を提供する教育プログラムを整備する。
	7.キャンパス環境	R3～R7	○ クラブ活動等を含む学生のキャンパスライフを支援する機能を強化	★★★	● 学生のアクティビティ（クラブ活動、行事等も含めて）を活性化する方策を講じる。
教育ビジョン 「目指すべき教育・教職員像」	1.教学体制	R3～R7	○ FD・SDによる教学の質の向上（授業内容の工夫や指導方法の改善）	★★☆ ★★★	● Active Learningの本格的なモデルを作成し、カリキュラムに積極的に組み込む。 ● 遠隔授業等の再活用を図り、対面授業と遠隔授業の併用システム（教育の可能性の多様化）を確立する。
	3.研究体制	R3～R7	○ 科研費・外部資金等の獲得につながる支援体制を整備	★☆☆ ★☆☆	● 昇任人事（規定）等の改善をととして適正な評価システムを確立する。 ● 教員の教育・研究活動及び研修実績等に関する適正な評価をととして人事等の活性化を図る。
		R3～R7	○ 全学的・組織的な研修・研究(FDの充実化等)による研究の質を高める機会を設定	★☆☆	● 教育研究費の活用をととして教育研究の質的な充実を図る。
	8.大学運営 A.組織改革 B.働き方改革 C.機構改革	R3～R7	○ 教職協働のもとで教員・職員の垣根を越えた組織体制を実現	★★★ ★★★ ★★☆ ★★★ ★★★ ★★★	● 「教職協働」の視点から大学運営における職員の参画を推進する。 ● 職員の組織及び職務分掌の見直し、専門研修の機会の充実を図る。 ● 多様な役割を担う職員の「働き方」を活かした人事評価、人員配置を検討する。 ● 【学生支援総合C】心身に障がい等のある学生支援のための体制づくり及びピア支援の充実化を図る（当該センター及び保健室、各学科間でのケアカンファレンス体制の充実強化）。 ● 【学生支援総合C】学生の出欠管理の一元化をととして、学生のニーズの把握と早期の支援を可能にする仕組みを検討する。 ● 【学生支援総合C】教員・職員とのチームケア体制を整備する。
教育ビジョン 「目指すべき学園組織」	6.地域貢献	R3～R7	○ 地域に密着した大学として地域連携の戦略を強化	★★☆	● 地域ボランティア・地域学探求を軸とする教育プログラムを検討する。
		R3～R7	○ 地域交流センターの機能の拡充を通して、学内外に地域貢献の拠点であることをアピール	★★☆	● 静岡福祉大学出版会（ブックレット・シリーズ）等を設けて、地域に成果を発信する。

教育ビジョン 「目指すべき学園組織」	7.キャンパス環境	R3~R7	○ 学生のキャンパスライフのために屋内外の環境を定期的に点検・整備	★★☆ ★★★	● 環境アセスメントをとおして屋内外の環境の整備に関して計画的に点検整備を行う。 ● キャンパスが活動拠点として魅力がある空間となるために学生の参画を推進する。
		R3~R7	○ 情報ネットワークの高度化に資する情報マネジメント体制を強化		
		R3~R7	○ 屋内外の環境の地域開放に資する状況や機能を把握	★★☆ ★☆☆	● 大学施設等の地域開放の状況や新たに付加すべき機能を把握する。 ● 産学連携や地域の生涯学習への支援などの社会貢献機能を強化する。
	8.大学運営 A.組織改革	R3~R7	○ 大学全体のデザイン力を高めて組織運営の質的転換を企図	★★★ ★★★	● 学科再編の可能性について学内での共通理解を醸成する。 ● 大学の構想とこれを実現していくための「PDCA」過程を可視化する。
		R3~R7	○ 運営協議会、教授会及び各種委員会、センター等の組織と運営の再編を検討	★★★ ★★★ ★★☆ ★★★ ★★★	● 大学の機能強化を図るために「意思決定⇄起案する組織⇄実践する組織」としての委員会及び職務分掌の再編を行う。 ● 本学の規模等に応じたセンター・委員会等の再編・統廃合を行い、取組の効率化や実行性の向上を図る。 ● 組織・運営の改善を図る目安として、学内の規程等の見直しに取り組む。 ● 学内の職務分掌の設定方法や委員会等の再編・効率化を進める。 ● 「教職協働」の視点からセンター・委員会の組織・運営を見直す。
		R3~R7	○ 近年の学科・専攻等の改組・新設を踏まえて専任教員の構成の全体像及び今後の採用計画等の見通しを明確化	★★★ ★★★ ★★★ ★★☆	● 教員の専門性を考慮しつつ職務分掌及び持ちコマ数等のバランスを調整する。 ● 専任教員の再編と適正配置、及び将来を見通した採用計画を作成する。 ● 科目再編にともなう非常勤講師等の適正配置を図る。 ● 現行の教員の職階（とくに講師・助教・助手）の見直しを図るとともに、給与体系の見直しも検討する。
		R3~R7	○ 大学として将来構想を不断に進捗管理するための部署（企画戦略部）を設置	★★★	● 構想に係る個別課題に対応する成果・評価指標を設けて「CA」過程を確立する。
	8.大学運営 C.機構改革	R3~R7	○ 【再掲】大学全体のデザイン力を高めて組織運営の質的転換を企図	★★☆ ★★★ ★★★	● 【図書館】地域における知の拠点として相応しい図書館機能の充実を図る。 ● 【学生支援総合C】学生の「居場所づくり」を工夫し、学内の眠っている資源の再活用を図る。 ● 【学生支援総合C】学生相談室を整え、カウンセラー等が待機して学生の「立ち寄り場所」として機能する空間を設ける。
		R3~R7	○ 【再掲】運営協議会、教授会及び各種委員会、センター等の組織と運営の再編を検討	★★☆ ★★☆ ★★★ ★★☆ ★★★	● 【図書館】図書館の蔵書及び研究・学習資料の定期的な点検と充実化を図る。 ● 【図書館】ラーニング・コモンズとして学生の主体的な学びの場を提供し、情報通信環境を揃え、自習やグループ学習を可能とする設備を整備する。 ● 【実習指導C】多様化する資格・免許等に即応する業務内容を精査し、専門的な人事（有資格）の配置を行う。 ● 【実習指導C】実習相談・支援及び実習先との連携など、センターの教育機能を強化する。 ● 【実習指導C】実習指導の専門性に鑑みて、独立した部署（機能）として位置づけ、他部署との連携を図る。
	9.経営改革	R3~R7	○ 第三者評価を導入し、法人及び本学の現状と課題、展望の客観化・可視化	★★☆	● 教職員・学生、地域・ステークホルダー等の大学評価（認識度・浸透度）を整備する。
		R3~R7	○ 中長期と短期の計画を区別し、それぞれの展望を明確化	★★☆ ★★☆	● 市町教委・市町社協等との連携協働の事業（福祉教育等）を拡充する。 ● 介護職・福祉職に係るリカレント教育の開発に取り組む。
		R3~R7	○ OB・OGとの連携ネットワークを拡充	★☆☆	● 本学の卒業生等との「卒後連携」に取り組む。 ・専門職等ネットワークづくりによる専門職養成・キャリア支援等の教育プログラムへの参加。 ・ホームカミングデー等による卒後の支援と連携。 ・学内企業説明会・セミナーにおけるOB・OGに係る企業等との連携。
	10.法人との 関係	R3~R7	○ 法人及び大学の指針の見える化つまりは毎年度のPDCAを作成	★★★	● 法人の経営指針と大学の教学方針の間の円滑な意思疎通を図る。
		R3~R7	○ 法人内の各組織間の緊密な連携関係を形成	★★★	● 法人及び大学の「意思決定プロセス」を明確化する。
		R3~R7	○ 大学と法人との定期的な連携協議の機会を設定	★★☆	● 法人内の学校間の相互評価システムを構築する。

II 安定した学園経営	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
確実な定員充足 「入学者の安定的な確保」	9.経営改革	R3~R7	○ 入学志望者・入学者の獲得に向けた広報戦略を策定	★★★	● 入学志望者・入学者の増加に向けて、オープンキャンパス等の充実強化、社会人入学、留学生等に係る入試改善・入学支援に取り組む。
財務状況の改善	財務状況の改善	R3~R7	○ 学生数の定員確保	★★★	● 学納金の収入が主な収入源であるとともに、補助金の算定条件ともなるので、安定的な学生数の確保に努める。
		R3~R7	○ 補助金の獲得	★★☆	● 経常費補助金のほか、条件に合致するものがあるか意識する。
		R3~R7	○ 経費削減	★★☆	● 経費(予算)を一律に削減するのではなく、内容を吟味し、教育の充実や学生確保に資するものはむやみに減らさない。
働き方の改善	8.大学運営 B.働き方改革	R3~R7	○ 【再掲】大学全体のデザイン力を高めて組織運営の質的転換を企図	★★★ ★★★ ★★★	● 教員の「専門業務型裁量労働制」のあり方を検討して、研究職としての労務体制を整備する。 ● 職員の「定時労働制」あるいは「変形労働制」の検討をとおして円滑な労務管理を行う。 ● 職員の長時間労働が常態化しないため業務改善及び事務量の効率化を図る。
		R3~R7	○ 【再掲】近年の学科・専攻等の改組・新設を踏まえて専任教員の構成の全体像及び今後の採用計画等の見通しを明確化	★★★ ★★★	● 36協定を踏まえて「過半数代表制」の導入を検討する。 ● 教員の授業等の負担の公平性を考慮して「超単手当」等の制度化を図る。

<基本方針>

I 質の向上

	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
教育ビジョン 「目指すべき園児・生徒・学生像」	教務関係	R3～R7	○ R4年度からの新学習指導要領への対応	★★★	● 実施内容のチェック
				★★★	● 授業時間数変更（週のうち3日は7時間授業）
		R3～R7	○ 学校行事の見直し(充実)	★★☆	● 各行事の内容を精査し、継続、内容変更、廃止のいずれかの決断を下す。
	生徒関係	R3～R7	○ 総合選択制の見直し	★★☆	● 選択制の長所と短所を見直し、生徒から求められる内容となっているか確認
		R3～R7	○ 生徒指導の内容の明確化	★★☆	● 時代に即応し、服装や挨拶、地域貢献の面などを見直す。
		R3～R7	○ 部活動の在り方について検討	★★☆	● 学校として強化したい部活を定める。
				★★★	● 静岡大成中からの生徒を受け入れる体制を作る。
教育ビジョン 「目指すべき教育・教職員像」	進路関係	R3～R7	○ 中高一貫制の検討【中高共通】	★★★	● 外部コーチの登用や地域クラブ化等、働き方改革への対応を検討
				★★★	● 中高一貫制を検討する組織を立ち上げる。
		R3～R7	○ 高大連携の強化	★★★	● 静岡福祉大学への内部推薦者の確保
		R3～R7	○ 進路指導の強化	★★★	● 特進クラスを中心に、国公立大学、難関大学合格者を増やすための学習指導内容を検討
				★★★	● 公務員（警察官、消防官、自衛官）希望者に対する公務員試験対策講座の実施
	総務関係	R3～R7	○ 学校広報の改善	★★☆	● 就職において、大手企業、金融機関への内定者を増やすための就職指導の内容を検討
		R3～R7	○ 継続的な地域貢献活動の推進【中高共通】	★★★	● 就職において、大手企業、金融機関への内定者を増やすための就職指導の内容を検討
				★☆☆	● 生徒の出身地の分布等を考慮し、適切な広告媒体の選定を行う。
				★★☆	● 部活、学年単位での周辺地域のごみ拾いを実施
	入試関係	R3～R7	○ 入試戦略の明確化	★★☆	● 地元住民への回覧版による公開講座の案内
				★★★	● 静岡福祉大学に寄せられるボランティア情報とのマッチングを図る。
				★★★	● 定員確保のためにすべきことを検討
		R3～R7	○ 募集広報戦略の見直し	★★★	● 修学支援金の対象範囲の広がりの影響が大きく、学費面での公私の差がなくなってきたことを考慮して、本校の特徴を広く訴える。
教育ビジョン 「目指すべき学園組織」	GIGAスクール構想	R3～R7	○ 1人一台のタブレットの利用方法を検討	★★★	● どこに誰に対しての広報が中心となるのか、広報ツールは何を用いるべきか等を検討
	国際交流	R3～R7	○ 国際交流の位置づけを検討	★★★	● ロイロノート、Classi等の学習アプリを含め、有効な利用方法を検討
				★★☆	● 英語教育の強化と併せて検討
		R3～R7	○ 留学生の受け入れ体制整備	★★☆	● 英語科や国際コースの設置も含めて検討する。
	施設・環境整備	R3～R7	○ 125周年に向けて「記念事業検討委員会」を設置【中高共通】	★★☆	● 2018年より毎年1名の短期留学生を受け入れているが、留学生本人の日本語力のバラツキも考慮して、対応体制を整える。
				★★★	● 財務面を含めた基本計画を完成する。
		R3～R7	○ 建物設備の修繕計画を策定【中高共通】	★★☆	● 体育館の建て替えにとどまらず、グラウンドの人工芝化等も含め検討する。
	危機管理	R3～R7	○ 建物設備を点検し、必要な修繕の見積もりを行う。	★★★	● 建物設備を点検し、必要な修繕の見積もりを行う。
		R3～R7	○ 大地震が発生した際の対処方法を策定【中高共通】	★★★	● 対応方法をまとめ、生徒、教職員でその内容を共有する。
		R3～R7	○ 地域との連携強化【中高共通】	★★☆	● 鷹匠2丁目自治会からは、グラウンドと体育館を避難場所にする要請がある。
		R3～R7	○ コロナ禍での授業継続体制の確立【中高共通】	★★★	● オンライン授業の利用を含め、授業を継続するための施策を検討・実施。また、感染の拡大を防ぐため、対策の徹底を図る。
	法人との関係	R3～R7	○ 事業継続計画を策定【中高共通】	★★★	● オンライン授業の利用を含め、授業を継続するための施策を検討・実施。また、感染の拡大を防ぐため、対策の徹底を図る。
		R3～R7	○ 法人及び中高の指針の見える化(毎年度のPDCA)【中高共通】	★★★	● 生徒情報等のバックアップ（クラウド利用）体制を含め、地震、水害、感染症流行のケースを想定して、どのような状況でどこまで校務を行うか検討する。
		R3～R7	○ 法人内の各組織間の緊密な連携関係を形成【中高共通】	★★★	● 法人の経営指針と中高の教学方針の間の円滑な意思疎通を図る。
		R3～R7	○ 法人及び中高の「意思決定プロセス」を明確化する。	★★★	● 法人及び中高の「意思決定プロセス」を明確化する。
		R3～R7	○ 中高と法人との定期的な連携協議の機会を設定【中高共通】	★★☆	● 法人内の学校間の相互評価システムを構築する。

II 安定した学園経営

	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
確実な定員充足 「入学者の安定的な確保」	生徒募集	R3～R7	○ 生徒募集戦略を構築	★★★	● 広報手段、ツール、媒体、対象エリア、対保護者、対中学教員等全体を通じた見直しを実施。
		R3～R7	○ スクールバスの運用方法を検討	★★★	● 費用対効果の面を含め、効果的な運用方法、代替手段等を検討
		R3～R7	○ 近隣競合校との差別化	★★★	● 本校ならではの特徴は何か、それが生徒にとってどのような効用をもたらしているかの整理
財務状況の改善	財務状況の改善	R3～R7	○ 生徒数の確保	★★★	● 本校ならではの特徴は何か、それが生徒にとってどのような効用をもたらしているかの整理
		R3～R7	○ 補助金の獲得	★★☆	● 学納金の収入が主な収入源であるとともに、補助金の算定条件ともなるので、安定的な生徒数の確保に努める。
		R3～R7	○ 経費削減	★★☆	● 経営補助金や振興補助金のほか、条件に合致するものがあるか意識する。
働き方の改善	働き方の改善	R3～R7	○ 経費(予算)を一律に削減するのではなく、内容を吟味し、教育の充実や生徒確保に資するものはむやみに減らさない。	★★☆	● 経費(予算)を一律に削減するのではなく、内容を吟味し、教育の充実や生徒確保に資するものはむやみに減らさない。
		R3～R7	○ 新指導要領への対応	★★★	● 必要な授業コマ数を確認し、必要な人員を充てる。
		R3～R7	○ GIGAスクール構想実現のための教員のITスキルアップ	★★★	● 必要の授業コマ数を確認し、必要な人員を充てる。
		R3～R7	○ 教員と事務職員の業務分担の見直し【中高共通】	★★★	● 研修会等を実施し、ICT機器の活用方法の検討、スキルアップを図る。
		R3～R7	○ 事務職員の時間外労働を削減【中高共通】	★★★	● 物品の調達等、現在は教員が担当している業務で、事務職員が担当できるものがないかを調査する。
				★★★	● 業務内容を見直し効率化を図る。
				★★★	● 教員だけではなく、職員もICTスキルの底上げをする。

<基本方針>

I 質の向上

	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
教育ビジョン 「目指すべき園児・生徒・学生像」	教務関係	R3～R7	○ R3年度からの新学指導要領への対応	★★★	● 実施内容のチェック
		R3～R7	○ 英語教育の強化	★★★	● 英語の指導に注力する。英検合格者を増やす。 イングリッシュキャンプ、イングリッシュトレーニング等の行事の在り方を合わせて検討する。
		R3～R7	○ 学校行事の見直し(充実)	★★☆	● 各行事の内容を精査し、継続、内容変更、廃止のいずれかの決断を下す。
		R3～R7	○ 3ライトクラスの実施形態見直し	★★★	● スリーライトクラスの位置づけを見直す。
	生徒関係	R3～R7	○ 生徒指導の内容の明確化	★★☆	● 時代に即応し、服装や挨拶、地域貢献の面などを見直す。
		R3～R7	○ 部活動の在り方について検討	★★☆	● 活動時間、クラブ数を含め、在り方を検討 ★★☆ ● 大成中学から大成高校へつながる仕組みを構築する。(男子バスケ等)
教育ビジョン 「目指すべき教育・教職員像」	進路関係	R3～R7	○ 中高一貫制の検討【中高共通】	★★★	● 中高一貫制を検討する組織を立ち上げる。
		R3～R7	○ 公立高校受験支援	★★★	● 現状では多くの生徒が上位公立高校の受験を希望している。当面、合格実績を増やすために進路指導の強化にあたる。
	総務関係	R3～R7	○ 学校広報の改善	★★★	● 生徒の出身地の分布等を考慮し、適切な広告媒体の選定を行う。
		R3～R7	○ 継続的な地域貢献活動の推進【中高共通】	★☆☆	● 部活、学年単位での周辺地域のごみ拾いを実施
				★★☆	● 地元住民への回覧版による公開講座の案内
				★☆☆	● 静岡福祉大学に寄せられるボランティア情報とのマッチングを図る。
	入試関係	R3～R7	○ 入試戦略の明確化	★★★	● 定員確保のためにすべきことを検討
		R3～R7	○ 募集広報戦略の見直し	★★★	● どの誰に対しての広報が中心となるのか、広報ツールは何を用いるべきか等を検討
教育ビジョン 「目指すべき学園組織」	GIGAスクール構想	R3～R7	○ 1人一台のタブレットの利用方法を検討	★★★	● ロイロノート、スタディサプリ等の学習アプリを含め、有効な利用方法を検討
	国際交流	R3～R7	○ 国際交流の位置づけを検討	★★★	● 英語教育の強化と併せて検討 イングリッシュキャンプ、イングリッシュトレーニング等の行事の在り方を合わせて検討する。
				★★★	● インターネット(スカイプ等)を活用しての英会話学習。2年前からオーストラリアとオンラインによる英会話の実施
				★★☆	● 財務面を含めた基本計画を完成する。
	施設・環境整備	R3～R7	○ 125周年に向けて「記念事業検討委員会」を設置【中高共通】	★★☆	● 体育館の建て替えにとどまらず、グラウンドの人工芝化等も含め検討する。
				★★★	● 建物設備を点検し、必要な修繕の見積もりを行う。
	危機管理	R3～R7	○ 大地震が発生した際の対処方法を策定【中高共通】	★★★	● 対応方法をまとめ、生徒、教職員でその内容を共有する。
		R3～R7	○ 地域との連携強化【中高共通】	★★☆	● 鷹匠2丁目自治会からは、グラウンドと体育館を避難場所にする要請がある。
		R3～R7	○ コロナ禍での授業継続体制の確立【中高共通】	★★★	● オンライン授業の利用を含め、授業を継続するための施策を検討・実施。 また、感染の拡大を防ぐため、対策の徹底を図る。
		R3～R7	○ 事業継続計画を策定【中高共通】	★★★	● 生徒情報等のバックアップ(クラウド利用)体制を含め、地震、水害、感染症流行のケースを想定して、 どのような状況でどこまで校務を行うか検討する。
	法人との関係	R3～R7	○ 法人及び中高の指針の見える化(毎年度のPDCA)【中高共通】	★★★	● 法人の経営指針と中高の教学方針の間の円滑な意思疎通を図る。
		R3～R7	○ 法人内の各組織間の緊密な連携関係を形成【中高共通】	★★★	● 法人及び中高の「意思決定プロセス」を明確化する。
		R3～R7	○ 中高と法人との定期的な連携協議の機会を設定【中高共通】	★★☆	● 法人内の学校間の相互評価システムを構築する。

II 安定した学園経営

	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
確実な定員充足 「入学者の安定的な確保」	生徒募集	R3～R7	○ 生徒募集戦略を構築	★★★	● 広報手段、ツール、媒体、対象エリア、対保護者、対中学教員等全体を通じた見直しを実施
		R3～R7	○ 近隣競合校との差別化	★★★	● 本校ならではの特徴は何か、それが生徒にとってどのような効用をもたらしているかの整理
財務状況の改善	財務状況の改善	R3～R7	○ 生徒数の定員確保	★★★	● 学納金の収入が主な収入源であるとともに、補助金の算定条件ともなるので、安定的な生徒数の確保に努める。
		R3～R7	○ 補助金の獲得	★★☆	● 経営補助金や振興補助金のほか、条件に合致するものがあるか意識する。
		R3～R7	○ 経費削減	★★☆	● 経費(予算)を一律に削減するのではなく、内容を吟味し、教育の充実や生徒確保に資するものはむやみに減らさない。
働き方の改善	働き方の改善	R3～R7	○ 新指導要領への対応	★★★	● 必要な授業コマ数を確認し、必要な人員を充てる。
		R3～R7	○ GIGAスクール構想実現のための教員のITスキルアップ	★★☆	● 研修会等を実施し、ICT機器の活法方法の検討、スキルアップを図る。
		R3～R7	○ 教員と事務職員の業務分担の見直し【中高共通】	★★★	● 物品の調達等、現在は教員が担当している業務で、事務職員が担当できるものがないかを調査する。
		R3～R7	○ 事務職員の時間外労働を削減【中高共通】	★★★	● 業務内容を見直し、効率化を図る。 ★★★ ● 教員だけではなく、職員もICTスキルの底上げをする。

<基本方針>

I 質の向上	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
教育ビジョン 「目指すべき園児・生徒・学生像」	1.経験・体験の幅の拡大	R3～R7	○ 夢中になって遊ぶ子（遊びを知り、生み、広げる） ・たくさん遊び、思考の源となる経験、体験の幅を広げる。 ・遊びを通して知識を獲得し、技能を習熟させ、知識・技能を統合して知恵を形成する。	★★★★ ★★★★ ★★★★ ★★★★ ★★★★	● 自由遊びができる子になるように、自分で遊びが見つけれられる環境を整える。 ● 集団遊びができる子になるように、寄り添い、手を取って友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わわせる。 ● 子どもたちが遊びを見つけ、生み出し、広げていけるよう環境の構成に意を凝らす。 ● 子どもたちの遊びの世界を広げるために、必要に応じて教師も誘いの声かけをする。 ● 好奇心や探求心を抱く子になるように、自然事象や社会事象への遭遇を求め、積極的に園外保育に努める。
	2.人間関係調整力の伸長	R3～R7	○ 仲良く楽しく遊ぶ子（たくさんの友達と触れ合う） ・たくさんの触れ合いを通して、人とうまく折り合いをつけていく力（コミュニケーション力）を養う。	★★★★ ★★★★ ★★★★	● 全教師が全園児の担任という意識の持続を図り、子どもたちが学年を越えてかわり合いやすくする。 ● 集団遊びができる子になるように、寄り添い、手を取って友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わわせる。 ● 園を開き、教育を開いて、子どもたちが人と接する機会の増加に努める。
	3.聞く態度・聞き取る力の育成	R3～R7	○ ここ一番集中する子（よく聞き、よく知り、よく分かる） ・全ての学習の基盤となる聞く力を育てる。 ・咄嗟のときに自分の命を守れるよう、放送や教師の指示に耳を傾けようとする態度を育てる。	★★★★ ★★★★ ★★★★	● 教師自身がメリハリ感を大事にし、日々メリハリのある教育、保育に心がける。 ● 子どもの目を見、心の耳を傾けて、じっくり聞いてあげる。 ● 話しかけられたら、相手の目を見て聞ける子になるように、子どもの目を見つめ、心を込めて語りかける。
	4.預かり保育	R3～R7	○ 親の期待に応える預かり保育の実践	★★★★	● 多様な預かり保育の実践（保育終了後の預かり保育、課外教室までの預かり保育、早期預かり保育、長期休業中預かり保育）——預かり保育も大切な教育の時間という認識で臨む。
教育ビジョン 「目指すべき教育・教職員像」	1.人間性・社会性、専門性を具えた教職員	R3～R7	○ 子どもの後ろの親、家族にまで思いを馳せることのできる人間教師 ○ 常識・良識をわきまえた社会人教師 ○ 幼児教育の専門的実践力を具えた教師	★★★★ ★★★★ ★★★★	● 一人一人の子どもに寄り添い、子どもたちの心の声にじっと耳を傾ける。 ● 子どもたちに到達と充足の喜びを、親にわが子の育ちの確かさの実感を提供する。 ● 家庭（親）と幼稚園（教師）の共働意識の一層の高揚に努める。
	2.先見的視野に立つ教師	R3～R7	○ 小学校教育と児童の発達過程を見据えることのできる教師	★★★★ ★★★★ ★★★★	● 小学校教育の内容に対する理解を深める。 ● 小学校の肉体的、精神的な発達過程に対する理解を深める。 ● 社会の動向、教育界の動向に関心を持つ。
教育ビジョン 「目指すべき学園組織」	1.幼稚園経営の在り方検討	R3～R7	○ 子どもが行きたくなる、親が行かせたくなる幼稚園	★★★☆	● いっぱい遊べる幼稚園、たくさんの友達と一緒に遊べる幼稚園、家に帰って親に話したいことがたくさん生まれる幼稚園であり続ける。 ● 親がわが子の充足と確かな育ちを実感できる幼稚園であり続ける。 ● 小学校への接続、中学校への発展を視野に入れながら、日々の保育を意味ある保育としてとらえ直す。
	2.幼稚園施設の整備計画の策定	R3～R7	○ 狭隘な幼稚園施設と園庭を有効活用し、利用しやすい施設整備計画の策定	★★★☆	● 園舎の耐用年数等を考慮し、現行敷地を活用した整備計画（仮園舎等）を策定する。

II 安定した学園経営	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
確実な定員充足 「入学者の安定的な確保」	募集広報戦略	R3～R7	○ 入園者・入学者の獲得に向けた広報戦略を策定	★★★★	● 年間広報計画を策定するとともに、精華幼稚園の特出した実践事例を多く露出させ、早期から園児募集を図る。
財務状況の改善	財務状況の改善	R3～R7	○ 園児数の定員確保	★★★★	● 学納金の収入が主な収入源であるとともに、補助金の算定条件ともなるので、安定的な園児数の確保に努める。
		R3～R7	○ 補助金の獲得	★★★☆	● 経営補助金や振興補助金のほか、条件に合致するものがあるか意識する。
		R3～R7	○ 経費削減	★★★☆	● 経費(予算)を一律に削減するのではなく、内容を吟味し、教育の充実や園児確保に資するものはむやみに減らさない。
働き方の改善	働き方改革	R3～R7	○ 幼稚園に勤務する教職員の働き方についての検討の実施	★★★★ ★★★★	● 職員の「定時労働制」あるいは「変形労働制」の検討をとおして円滑な労務管理を行う。 ● 職員の長時間労働が常態化しないため業務改善及び事務量の効率化を図る。

VI－5 学校法人静岡精華学園 目標と今後の取組

R3.4.1

<基本方針>

I 質の向上	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
教育ビジョン 「目指すべき教育・ 教職員像」	人材育成	R3～R7	○ 人材育成計画の策定	★★★	● 教職員の資質向上のため、人材育成計画を策定する。
	中期計画	R3～R7	○ 中期計画の進捗管理	★★★	● 中期計画の進捗管理を通して、質の向上と課題克服を目指す。
	情報共有	R3～R7	○ 各所属との意思疎通	★★★	● 大学、中高、幼稚園との間で、経営方針、教学方針等に対する考えを共有する。
		R3～R7	○ 機能別情報交換会の実施	★☆☆	● 部門ごと(機能ごと)に各所属の担当者と連絡会(情報交換会)を行う。 経理担当者、募集担当者、高大連携担当者、就職指導担当者
	組織体制	R3～R7	○ 人員計画の策定による適切な教職員配置の実施	★★★	● 各所属の人員計画を策定し、適正規模を見定めた計画的な人事に努める。
II 安定した学園経営	区分	スケジュール	○目標	優先度	●今後の取組
確実な定員充足 「入学者の安定的な確保」	生徒募集	R3～R7	○ 学園全体の広報を検討	★★★	● 静岡精華学園全体の効果的かつ戦略的な広報手段、広報媒体を検討する。
財務状況の改善	財務状況の改善	R3～R7	○ 授業料値上げの検討	★★★	● 2回の消費税増税においても据え置いている授業料の適正金額を見直す。高等教育の無償化も踏まえて検討する。
		R3～R7	○ 入札や見積り合わせの徹底による経費削減	★★★	● 会計業務や内部監査を通じて、適切な業者選定ができているか確認する。
		R3～R7	○ 外部資金の獲得	★★★	● 学外からの寄付金を募る担当を定める。その他の外部資金についても獲得できるかを研究する。
		R3～R7	○ 人員計画の策定による適切な教職員配置の実施【再掲】	★★★	● 各所属の人員計画を策定し、適正規模を見定めた計画的な人事に努める。【再掲】
		R3～R7	○ 資産の効率的かつ有効な運用	★★★	● 有効な資産運用ができるよう、金融機関との関係構築や情報収集を行う。
		R3～R7	○ 収支の均衡	★★★	● R7年度までに収支のマイナスをプラスに転じる。
働き方の改善	働き方の改善	R3～R7	○ 学園全体の人事評価制度の導入の検討	★★★	● 教職員の成果に報いる評価制度を確立する。
		R3～R7	○ 人件費以外の待遇改善による優秀な人材の定着	★★★	● 教職員の負担軽減や休暇が取得できる環境実現のための方策を検討する。
		R3～R7	○ 情報システムの導入検討	★★☆	● 電子決裁(電子印鑑)、ワークフローシステム等の導入を検討する。
		R3～R7	○ 業務のスリム化	★★☆	● アウトソーシング、各所属への業務移管、ロボティクス等を検討する。

Ⅶ 5年後の主要な数値目標

項 目		令和2 (2020)	令和7 (2025)	備 考
学生・生徒・園 児数	大学	707人	➡ 825人	2025年までに損益分岐点に到達
	高校	488人	➡ 544人	2025年までに損益分岐点に到達
	中学校	165人	➡ 203人	2025年までに損益分岐点に到達
	幼稚園	206人	➡ 190人	適切な定員管理（定員を超過しないよう）に努める
国家試験合格者	社会福祉士	44.1%	➡ 75%	みらい躍進計画(H28～R2)にならない、合格率を3年間で10ポイントずつアップ。
	精神保健福祉士	89.5%	➡ 90%	みらい躍進計画(H28～R2)にならない、毎年合格者を15名出す想定。
	介護福祉士	95.1%	➡ 100%	みらい躍進計画(H28～R2)を踏まえ、全員合格を目指す。
高大連携	内部進学者	9人	➡ 20人	みらい躍進計画にならない、静岡大成高校から静岡福祉大学への進学者を毎年20人確保する。
財政基盤※	経常収支差額 比率	-7.9%	➡ 0%	経常的な収支の安定に努め、長期的、経営改善を目指す。
	人件費比率	72.8%	➡ 66%	人事・給与制度の見直しや、教育条件にあった適正な人事配置により人件費比率の低減を目指す。
	教育活動資金 収支差額比率	5.0%	➡ 8.5%	学生・生徒・園児の確保を通じ、キャッシュフローの安定を目指す。
	積立率	44.8%	➡ 57%	長期的に安定した学校経営のため、必要な運用資産の確保を目指す。

※財政基盤の2020年度の数値はR元年(2019年)度のもの

Ⅷ 部門別 収支推移見込

【静岡福祉大学】

(単位:千円)

	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込	令和3年度見込	令和4年度見込	令和5年度見込	令和6年度見込	令和7年度見込
学生数(定員)	860	890	920	950	946	942	942	942	942	942	942
学生数(現員)	772	751	756	730	698	707	713	751	803	805	825
教育活動収入	909,393	878,732	889,496	820,006	789,516	868,865	876,239	922,939	986,844	989,302	1,013,881
教育活動支出	893,389	879,658	921,981	868,825	893,399	995,059	996,000	997,000	998,000	999,000	1,000,000
教育活動収支差額	16,004	△ 926	△ 32,485	△ 48,819	△ 103,883	△ 126,194	△ 119,761	△ 74,061	△ 11,156	△ 9,698	13,881
教育活動外収支差額	△ 1,601	△ 163	380	108	361	642	600	600	600	600	600
特別収支差額	△ 40,675	△ 18,435	△ 15,316	△ 8,969	△ 15,824	△ 10,640	△ 10,000	△ 10,000	△ 10,000	△ 10,000	△ 10,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 26,272	△ 19,523	△ 47,421	△ 57,681	△ 119,345	△ 136,192	△ 129,161	△ 83,461	△ 20,556	△ 19,098	4,481

【静岡大成中学校・高等学校】

		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込	令和3年度見込	令和4年度見込	令和5年度見込	令和6年度見込	令和7年度見込
中学	生徒数(定員)	240	240	240	240	240	240	240	240	240	240	240
	生徒数(現員)	161	152	177	177	178	165	172	180	187	195	203
高校	生徒数(定員)	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
	生徒数(現員)	503	444	482	500	476	488	490	530	517	540	544
教育活動収入		600,616	541,581	629,978	621,586	624,949	617,867	626,383	671,800	666,123	695,455	706,810
教育活動支出		679,797	647,159	720,709	679,197	646,531	663,412	663,000	664,000	665,000	666,000	667,000
教育活動収支差額		△ 79,181	△ 105,578	△ 90,731	△ 57,611	△ 21,582	△ 45,545	△ 36,617	7,800	1,123	26,617	33,186
教育活動外収支差額		1,044	978	668	253	570	500	500	500	500	500	500
特別収支差額		△ 21,134	△ 8,952	△ 1,853	△ 10,239	△ 10,176	△ 6,839	△ 10,000	△ 10,000	△ 10,000	△ 10,000	△ 10,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 99,271	△ 113,552	△ 91,916	△ 67,596	△ 31,189	△ 51,884	△ 46,117	△ 1,700	△ 8,377	17,117	23,686

【静岡精華幼稚園】

	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込	令和3年度見込	令和4年度見込	令和5年度見込	令和6年度見込	令和7年度見込
園児数(定員)	190	190	190	190	190	190	190	190	190	190	190
園児数(現員)	199	196	193	187	202	206	190	190	190	190	190
教育活動収入	116,803	114,247	116,209	114,167	126,501	124,721	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
教育活動支出	96,915	95,660	100,359	105,165	111,868	108,788	92,856	88,496	103,492	96,915	95,660
教育活動収支差額	19,888	18,587	15,850	9,001	14,633	15,933	27,144	31,504	16,508	23,085	24,340
教育活動外収支差額	2,346	2,425	2,278	1,905	1,976	1,830	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
特別収支差額	△ 913	△ 766	△ 391	△ 142	△ 1,687	△ 2,790	△ 2,000	△ 2,000	△ 2,000	△ 2,000	△ 2,000
基本金組入前当年度収支差額	21,322	20,246	17,736	10,764	14,922	14,973	27,144	31,504	16,508	23,085	24,340

※ 特別収支差額のうち学内振替(収入・支出)は、平成28年度から負担率を軽減している。(平成27年度迄:授業料収入×10%, 平成28年度以降:授業料収入×5%)